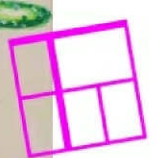


豊田市美術館
2026.10.24

2027.1.24

豊田市美術館

paint-TENGU



Toyota
Municipal
Museum
of Art
豊田市美術館

犬大

Shigeru Hasegawa



絵画につかまれた人。

長谷川繁 (1963-) は絵画に憑かれ、絵画を描くために生きてきたといってもいい。それくらい頭の中は絵のことでいっぱいである。

1989年にドイツに渡り、西洋由来の「絵画」を描くことの困難に直面した長谷川は、それまでの絵を捨てるための、自己の叩きもというべき制作の日々を過ごします。そして1992年にオランダに移ると、ようやく自分の絵をつかみ始めます。勢いのある筆で、3メートルを超すような大画面に描き出されたのは、生姜のようにも、障壁画の松の巨木のようにも見える形で、その異様さと滑稽さは、現在に続く長谷川の絵の始まりをするものといえるでしょう。

長谷川作品に繰り返し登場するナスやキュウリ、バナナや魚といったモチーフは、伝統的な静物画を換骨奪胎したようであり、ドレープや椅子の脚といった西洋由来のモチーフも、意味を剥奪されたただの形として画面を自在に組み立てるパーツとなっています。こうして限られた要素だけを用いながら常に違う絵を描こうという長谷川の大胆な試みは、ときに行き詰まり、2013年には発表を休止するに至ります。しかしその長い潜伏期間にも制作は続けられ、2019年に個展を再開すると、以後、長谷川は精力的に発表を続けてきました。わずかな絵具を伸びやかに使い、極限まで切り詰めて描き出された最近作は、あたかも内側から発光しているようで、初期からの道のりを顧みれば驚くほど変化していることに気づかれます。

本展では、長谷川の長年の制作を新旧織り交ぜながら紹介し、そこにある徹底した意志と軽やかな展開とを明らかにします。また古今東西、多くの作品を見ることに徹してきた長谷川の眼と、一方で、高尚な芸術とは別に育まれた独自の感受性にも着目し、当館コレクションと長谷川作品および彼の雑多な蒐集品とで構成した一室を設け、その世界を体験していただきます。長谷川にとって美術館での初の大規模個展となる本展をぜひ、ご覧ください。

【関連イベント】

死ゲルの死ぬまでトーク

日時：11月1日①、1月10日①

両日とも午後1時～5時（途中参加・途中退出可）

※当日の観覧券が必要です

対談：長谷川繁×清水穰（同志社大学教授）

日時：2026年11月15日① 午後2時～

会場：美術館講堂

定員：先着170名、聴講無料

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：10月25日①、12月13日①、1月16日①

各日午後2時～3時

※当日の観覧券が必要です

その他、関連イベントも予定。

詳細は美術館ウェブサイト、SNS等でお知らせします。

【同時開催】

没後20年 井田照一展

【次回開催】

春と云々

2027年2月27日①—5月30日①

【関連施設情報】

豊田市博物館：

戦国を生きる 細川家と永青文庫の名宝
2026年10月10日①—12月6日①

豊田市民芸館：

一挙公開 棟方志功

2026年9月26日①—11月23日①・②

2026年11月28日①—2027年1月31日①



豊田市美術館

Toyota Municipal Museum of Art

Shigeru Hasegawa, paint-TENGU
2026.10.24(土)—2027.1.24(日)

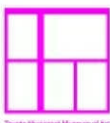
【お問合せ先】

豊田市美術館 〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町8-5-1

Tel: 0565-34-6610

E-mail: bijutsukan@city.toyota.aichi.jp

https://www.museum.toyota.aichi.jp



観覧料	一般	高校・大学生	中学生以下
当日窓口販売	1,300円	1,000円	無料
オンライン販売	1,100円	800円	



●前売券及び20名以上の団体は当日料金から200円割引 ●同時開催の井田照一展も見られるお得なセット券を販売します。（オンライン限定：一般：2,000円、高校・大学生：1,500円）●前売券販売所、セット券詳細、その他、観覧料の減免や割引等については、当館ウェブサイトをご確認ください。